

〔子供と共に生活づくりをする視点から－もう一步踏み込んだ実践の検討〕

今回、導入として、遠足、運動会、修学旅行などの行事から日付や曜日を話題にして学習を展開した。その中で日付や曜日の読み方、カレンダーの見方を中心に学習を行った。今回の実践はカレンダーを普段の生活に活かすことを意識しているが、「子供と共に生活づくりをする」という視点から迫る時に以下のような展開も一例になると思われる。

本校中学部では毎週金曜日の学部集会で、次週の予定についてみんなで確認する『来週の予定』コーナーがある。そこでは次週の行事予定表を教師が話しながら書き込んだり行事を書いた文字カードや絵を生徒に貼ってもらったりしている。Cグループの学習でこの予定表を中心に据えて生徒の生活に根ざしながら日付や曜日を指導していく学習も考えられる。具体的にはCグループで学部集会で使用する予定表作りを請け負って枠作りの線引きから始まり、日付や曜日の記入、行事を書いた文字カードや絵カードの作成をする活動を通して日付や曜日の読み方、カレンダーの見方の学習を行っていくことも考えられる。

(新保利久)

### 事例 3 国語「自己紹介」

#### (1) 生徒の実態

このグループは、1年生2名、2年生2名、3年生1名の5名で構成されている。全員が簡単な漢字を含む文章を読むことができるが、その読み方は一文字ずつの拾い読みだったり、文字をしっかりと見ないで読んでしまったり、正確に読めなかったりする。日記など簡単な漢字を含む文章を書くことができる生徒もいるが、見本の漢字を正確に書き写せない生徒もいる。学習に対しては意欲的に参加し発言も多いが、自分の思いや感想をうまく言葉で表現したり書いたりすることが難しいため、教師や友達とうまくかわれなかったり伝え合うことができなくて授業に参加できないこともある。また、自分の住所や生年月日が言えなかったり、家族の名前が言えなかったり、当然わかっていると思っていたことが意外に話せなかったり、書けなかったりする生徒も多いことがわかった。

#### (2) 教材観

学校生活や日常生活の中で自己紹介をする機会が多い。いろいろな人とのかかわりの中で自分のことを伝える力は大切であると同時に相手のことを知ろうとする力も必要であると考え。そこで自分のことや自分の思いを言葉にしてきちんと相手に伝えたり書いたりできるようになることと相手のことを聞く力を育てることを目標として「自己紹介」をとりあげた。学校生活の文脈の中で機会をとらえて「自己紹介」の場を設定し、「話したい」「伝えたい」思いを育て意欲を引き出していきたいと考えた。その中で正確に自分のことを知らせるために正しく表記したり漢字で書くことが必要なことに自分で気づいて学習できるように配慮することとした。

### (3) わかる状況づくり

名前・住所・電話番号・家族の名前・年齢を自分で書いたり、話したりする。それができるようになるためには、それが必要な場を何度も経験することが必要と考え、繰り返し「自己紹介」の場を設定した。同じことを違った形で質問したり、異なる場面を設定したりすることで、よりしっかりと意識化できるように繰り返し学習した。また、毎回「自己紹介」の形式を決めそのプリントを用意することで取り組みやすいように配慮し、授業後にはそのプリントを廊下に掲示して他の教師からも評価の言葉をかけてもらうようにした。そのことで子どもたちはさらに意欲をもって取り組めるようになり、授業が終わっても自分の方からその日学習した「自己紹介」を言いたがったり、英語で話しかけたりするなど少しずつ広がりが見られるようになってきた。子どもたちの「伝えたい」という思いを大切にしながら、次へのステップをはかるようにスモールステップで取り組むこととした。

以下にどのような場を設定し、どのように取り組んだかをまとめた。

#### ①マイ プロフィール (プリント・発表)

名前 住所 TEL 生年月日 家族	好きなこと   フリーコーナー
-------------------------------	--------------------------

#### ※4月初めてのグループ学習の時間

自分のことを友達や教師に知ってもらうために、「好きなこと」「フリーコーナー」を作り、自由に書くことにした。なかなかそれを書くことは難しかったが好きなアイドルのことを書いた生徒、好きなキャラクターの絵を描いた生徒、『不明』と書いた生徒などそれぞれの個性が見える「マイプロフィール」ができた。このとき、どの生徒も自分の住所・電話番号・生年月日・家族を正確に書くことができなかった。そこで一つ一つをしっかりと押さえながら書けるように指導していくことの必要性を感じた。

#### ②「自己紹介」(プリント・発表)

・ほくの名前は <input type="text"/> です。
・ほくの住んでいるところは <input type="text"/> です。
・ほくの好きなことは <input type="text"/> です。

※7月 前回書くことができなかった住所に絞って、正確に漢字で書けることと番地も含めて言えることをねらった。また、「好きなこと」をもう一度取り上げたがほとんどが前回と同じことを書いていた。そこでもっと具体的な項目をあげて生徒たちが考えやすいようにすることで、違う答え方ができるのではないかと考え次のようなプリントを用意した。

③「質問に答えよう」(プリント・発表)

・あなたの名前は？「	です。」
・あなたの生年月日は？「	です。」
・あなたの住所は？「	です。」
・お母さんのお名前は？「	です。」
・どんなスポーツが好きですか？「	です。」
・どんな本が好きですか？「	です。」
・将来どんな仕事をしてみたいですか？「	です。」

※7月 マレーシアからのお客さんの参観の日

質問されてそれに答えるという形式で自分のことを言葉にできるように考えた。今回は生年月日を覚えることと、家族の名前を意識すること（おかあさんは「おかあさん」だけでなく「○○○」という名前がある）、また、好きなことをより具体的にできるようにスポーツや本・仕事という項目について答えるようにした。

マレーシアのお客さんに質問したり、お客さんからの質問に答えたりして自己紹介を実際に体験することができた。何を質問したらいいかわからない子はプリントを見て質問項目を決めていた。全員がプリントを手にしながらかお客さんの質問に目を輝かせて答えることができ、楽しい時間となった。

④「自己紹介〔ベトナムの人に〕」(プリント・発表)

《ベトナム語のあいさつ》

《英語で名前・年齢・好きなことを話そう・書こう》

My name is	<input type="text"/>
I am	<input type="text"/> years old
I like	<input type="text"/>

※11月 ベトナム姉妹校からのお客さんへの自己紹介

今回は本校の姉妹校であるベトナムのタンマウ障害児学校の教師と子どもの家族が本校を訪問することになり、彼らへの自己紹介をするために、英語で言うことにした。繰り返ししてきた「自己紹介」だったが英語ですということによって全員が意欲的に参加することができた。表記もアルファベットで書きたい子もいて、その子に応じて指導した。その内容に今回初めて年齢を取り上げた。生年月日は○月○日がわかって○年を意識することは難しい。そのため、年齢についてもまだ十分理解できていないことがわかり、今後繰り返し取り上げることにしたい。

⑤「自己紹介〔オーストラリアの人に〕」(発表)

※12月 オーストラリアからの留学生メリッサさんへの自己紹介



「I came from Australia.」



自己紹介「Hello! My name is…」

オーストラリアからの留学生メリッサさんがグループの授業に参加して下さった。オーストラリアの絵はがきを見せながら英語で「シドニー」「ビーチ」「コアラ」「カンガルー」などいろいろ紹介して下さった。いっしょに英単語を発音したり、いろいろ質問したり、積極的にかかわっていた。最後に自分たちが自己紹介することになったが⑤で練習したプリントを使って全員が積極的に自信をもって発表していた。

#### (4) 指導の実際

I男は1年生。簡単な漢字交じりの文章をすらすらと読むことができ、内容もほぼ理解できる。書写では1・2年生程度の漢字をほぼ正確に書くことができる。①「マイプロフィール」では名前のみ漢字で書くことができたが、住所の漢字も番地もわからなくて教えてほしいと要求してきた。生年月日は何年生まれかわからず、誕生日も1日まちがえていた。好きなことでは最初「不明」と書いていたがあとで「女の子をいじめること」とし、フリーコーナーには女の子をピコハンマーでたたいている絵を描いた。そこで彼の目標を『住所・生年月日を正しく覚えること』と『自分の気持ちを素直なことばで表現できるようにすること』とした。

2回目の②「自己紹介」では住所はもうしっかりと覚えて書いたり、言うことができていた。好きなことには最初やはり『女の子をいじめること』と書いたが少し考えて『ハム太郎』と訂正していた。

3回目。「質問に答えよう」では好きなことを具体的な項目で聞いてみた。好きな本では、その頃グループの授業のはじめに毎回読んでいた『しろいうさぎとくろいうさぎ』の絵本をあげることができた。この本は6月の授業で一度読み聞かせた時に真剣な表情で聞き入り、とても気に入ったらしく、その後毎回授業のはじめに彼がこの本をリクエストするようになったものである。くろいうさぎが真剣に悩んで「ずっとずっといっしょにいたい」と言ったときにしろいうさぎが「結婚しよう」といってそれからずっと2ひきはいっしょになかよく暮らしたという内容である。『優しい気持ちだね』と読んだ後いつも彼がつぶやいていたことを思い出しうれしく思った。

I男の変化は授業態度や友だち・教師とのかかわりにもはっきり現れてきた。はじめの頃「女の子をいじめること」ばかりで授業中も好ましくない態度をとることが多かった。「認められたい」「ほめてほしい」という思いが強くてそれがわざと怒られるようなこと

をしてみせるという行動になってしまっていると思われるが、直接そのことにふれないで絵本や関わりを通して接し方を学んでほしいと考え、絵本の読み聞かせと教師や友だちとのやりとりを大切にするように心がけた。しだいに友だちの発表にも少しずつ耳を傾けるようになり、そのことで友だちとどうかかわればいいのか、友だちのことを考えて行動できるようにもなっていった。発表がうまくできなかつた時には教師に対しても素直なことばで「だって恥ずかしいから」などと言えるようになってきた。

2学期に入り、ベトナムやオーストラリアの人への自己紹介では、照れながらも自信をもって英語で話すI男の姿が見られるようになり、少しずつ彼の目標をクリアしていることをうれしく思っている。

#### (5) 考察

「自己紹介」を繰り返す中で生徒たちは、自分の名前・住所・電話番号・家族を改めて意識して話したり書いたりする経験をし、覚えることができた。それが必要な場を設定し、それを繰り返すことではじめて自分のこととして意識することにつながったのではないかと思う。場の設定と繰り返しの大切さを実感することができた。

また「自己紹介」では必ず発表の場を設けた。みんなの前で声に出して自分のことを発表し、それを聞いてくれる人がいるということで「相手に伝わった」ことを実感し、共有できた喜びにもつながったと思われる。学校生活の文脈の中で出会ったお客さんに実際に「自己紹介」を経験することで彼らは回を追うごとに自信をもって発表するようになっていったのである。

生徒達は「自己紹介」を通して自分の思いが伝わった喜びを感じたり、相手をわかり合ったりすることができた。そのことで授業に積極的になり、自信をもって発表したり、友だちやお客さんのことをもっと知りたがったり、友だちとかかわりあったりする姿がよくみられるようになってきた。その姿は教科の学習だけにとどまらず、学校生活全般でもみられるようになっており、生活の文脈の中でつながり合い、かかわり合って育ってきていると思われる。今後も彼らの生活の文脈の中で学び合い、育ち合っていきたいと考えている。

(近藤明子)

### 事例 4 国語「かべ新聞作り」

#### (1) 生徒の実態

このグループの生徒達は興味があることについて会話を楽しんだり、絵や文字にあらわすのが好きである。また、本や雑誌、新聞、地図などから好きなことを見つけてくる生徒が多い。興味のあることについて教師や友だちに話しかけたり、書くことが好きな反面、会話が一方的でまとまっていなかったり、書いたことについて説明できなかつたりする。このように相手に言いたいことが伝わらず、教師も受けとめて返してあげられない場合も多い。